

## 能登在住43年

藤平朝雄



人生の追分道に立ったとき、どっちへ行くかは人それぞれ。東京で生まれ育った私が、すでに43年も奥能登で暮らしている。いい所だからだ。「お陰さま」の一言に尽きる。

26歳で脱サラして、首都圏を飛び出したのが昭和40年10月。北は北海道礼文島のスコトン岬から、南は沖縄波照間島の南浜まで3年5ヶ月。その間、伊豆、木曾、南九州、北海道、能登、沖縄の各地で働きながら、自分でも訳の分からない旅を続けた。都会生活の負犬が「なんとかなるさ」の自棄こそ半分で旅に出た、というのが偽らぬ気持だった。リュックには、好きな詩歌などを書き込んだ3冊の大学ノート詰め込んだ。自選自筆の詩歌集は、折々に私を励ましてくれたし、旅の終わりまで付き合ってくれた良き伴侶だった。

いま振り返れば、必ずしも「無駄な旅」ではなかったと思わないでもない。こうして長年能登に住んでいられるのだから……。

旅先の縁で結婚し、44年4月4日から輪島市東端の皆々木海岸に住み着いた。「よく覚えていますねえ」と云われるが、オール4並びなので忘れることはない。当地に来てからユースホステル、輪島市観光協会、キリコ会館などで、ありがたい仕事をさせて頂いた。能登は保守的な土地と言いつ人もいるが、私のような半端な他国者でも受け入れてくれた。

あれから43年の歳月が流れる中で、私は幾度も自分のいたらなさをへまやドジを踏んで来た。家族にも迷惑をかけてきた。しかし、それらの何倍もの能登ならではの「天恵」を頂き、楽しみ、味わってきた。

昨年6月、国連の食糧農業機関から能登の里山里海が「世界農業遺産」に認定され、二年数カ月後には、金沢駅まで北陸新幹線がやってくる。この機会に能登に住む人が、もっと地域に誇りをもとう。過

疎化高齢化社会が進んでいることは誰もが知っている。流れは変えられなくても、地域の生き方を創っていくのが今を生きる私たちの役目ではないか。土地は先祖からの預かりものというより、次世代の子や孫達から預かっているもの——と考えたい。能登はぐるっと回る旅がいい。能登の最果てを巡らずして、能登を旅したと言わず勿れ！ 私の持論のひとつである。

◇藤平朝雄氏／石川県観光スペシャリスト・ほつと石川観光マイスター・能登半島広域観光協会相談役・風媒花同人。(輪島市在住)

わが家の裏庭から皆々木海岸のシンボル「窓岩」が目の前。初夏にはハマナスが咲き匂う。(撮影・藤平朝雄氏)



「東京奥能登応援団のホームページ」アドレスは <http://okunoto.net> です。

### いらむ アイデンティティ ⑮

海水・塩田・太陽が育む 恵みの天然塩

仁江海岸には日本で唯一の「揚げ浜式製塩」の技法が今も守り伝えられている。塩浜製法には「揚げ浜」と「入り浜」(流下式)の二種類があり、奥能登では慶長元年(1599)に加賀藩の施策で揚げ浜式塩造りが始まった。

塩は生活に欠かせないものであるから、古代エジプトをはじめ世界各地に、塩の道、物語が伝承されている。加賀藩では海辺一帯に塩田を設置し、米を前貸しして塩を造らせ塩を返納させる専売制の推進と保護をした。特に珠洲に塩田が多かったのは、海水の塩分が濃いこと、焚く燃料が得易いこと、内浦では塩田が造り易く外浦は日照時間が長い利点などで藩が塩生産に力を注ぎ重要な財源としたからである。

明治四年の廃藩置県により藩が崩壊して製塩業者は大打撃を受けた。この苦境を打開するために医師で区長(今の市長) 藻寄行蔵たちの熱意ある奔走があった。そして、時代は変わろうとも角花家では見事に塩田技術の命脈を今日に繋いできたのである。平成四年(1992)には揚げ浜式製法は石川県無形民族文化財に指定された。

揚げ浜式製法の作業工程は、ずっしり重たい海水の入った桶を運び、砂の敷き詰められた塩田の上に撒き塩分濃度を濃くして漉し、釜で塩分濃密な海水を煮詰め蒸発させて塩を造る素朴な製塩法である。

私が小学校(第二次世界大戦中は国民学校)四、五年ころ、生活困窮ゆえ在所(部落)共同で塩生産を実施した。当時婦人(母)と子どもで男一人前と見なされ、父が戦争に採られていたので、鶴島方浜で塩造りの経験をもつ。少年にとっては厳しかったが、裸足で塩田を踏みしめる感觸の心地よさ、勢いよく潮撒く技法の面白さ、釜焚き火力の微妙な要領の按配、そして白く輝く塩の結晶を引き上げる喜びなどの実感が今でも心身に残像している。

(押上武文〈府中市・宝立町出身〉)



# 飯田高校同窓会東京支部総会・懇親会の開催

去る5月19日(土)正午から東京千代田区所在、皇居半蔵門前の「グランドアーク半蔵門」において飯田高等学校同窓会東京支部(表 久雄支部長)の総会・懇親会がご来賓及び会員合わせて約80名の参加により開催されました。参加年次は中学14回生から高校43回生までという幅広いものとなりました。

総会では、表支部長の開会挨拶の後、ご来賓として地元から駆け付けられた井下現学校長、泉谷市長及び同窓会本部役員から在校生の活躍状況、珠洲市の現況等についての興味深いお話の後、役員の出が行われ、10回生の谷 辰夫氏が新支部長に、表支部長は顧問に選任され、併せて副支部長、幹事長などの新役員が選出されました。

新支部長以下役員の皆様、今後ともよろしくお願ひいたします。  
その後、新たに支部長に選任された東京理科大名誉教授 谷先生から「今後のわれわれのエネルギーは」と題した記念講演があり、



難解な問題について現状を踏まえつつ将来を見据えエネルギー源のベストミックスについてわかりやすくお話しいただきました。

今年、飯田高校は創立百周年を迎えました。明治45年(1912)、時あたかも明治から大正に改元される年に前身の高等女学校が創設されて以来、幾多の変遷を経ての一世紀。飯田高校では記念式典が挙行されるほか、卒業年次ごとに大小様々な同窓会が企画されています。

能登空港を利用される方には特典も用意されているそうです。同窓の皆さん、懐かしい学び舎、故郷の山河を望み、珍味に舌鼓を打ちながら、来し方行く末を眺めてみませんか。

## 飯田高校同窓会東京支部新役員

- 支部長 谷 辰夫 (10回)
- 副支部長 安田 正 (10回) 神尾 昌 (10回) 山崎敦子 (26回)
- 幹事長 光眞 章 (18回)
- 幹事 鹿肝泰春 (18回) 松木茂雄 (18回) 橋元昌幸 (23回) 本田ゆり子 (29回)

# 第50回東京珠洲会の開催

去る4月22日(日)午後4時から東京浅草所在、眺望抜群の「浅草ビューホテル」28階において東京珠洲会(笠原英二会長)の総会及び懇親会が来賓及び会員計126名の参加により盛大に開催されました。

大音響は御法度の格式あるホテルですが、笠原会長のご尽力により、馬縹キリコ太鼓の勇壮な演舞で幕開けとなり、その後、総会、懇親会へと移行しました。ご来賓として地元から駆け付けられた泉谷市長をはじめ、今井商工会議所



会頭、松原石川県東京事務所所長、平蔵県議会議員のご祝辞があり、地元珠洲の近況や飯田高校百周年行事などの紹介がありました。  
懇親会では佐々木ホコさんの歌謡ショー、恒例のカラオケ大会、抽選会など、なごやかな雰囲気の中で進行し、同郷の人々で楽しい時間を共有いたしました。  
半世紀に及び、会の運営を担って来られた役員及び関係者の皆様方のご労苦に改めまして心からの感謝と敬意を表したいと思っております。



# 珠洲東京視察研修団と交流会

去る6月29日(金) 珠洲商工会議所らの「視察研修団」一行(大兼政珠洲市議、会副議長ら11人)が上京し、東京のふるさと会役員と港区シーサイド芝弥生で交流昼食会を開催しました。東京のふるさと会からは、東京珠洲会笠原英二会長、谷克己相談役、飯田高校同窓会東京支部表久雄前支部長、石川県人会西喬事務局長ら9名が出席し意見交換を行いました。

地元の「平家の郷」構想に呼号して、平家伝説をキーワードにしたミステリー小説を執筆中の作家櫻田啓氏が小説のさわりを披露し、「平家伝説は全国各地にあまたあるが、平時忠の配流になった能登こそ史



視察研修団に小説の構想を語る 櫻田 啓 氏

## のとキラシマツツジ「本場」鹿児島霧島市などに

5月に珠洲市大谷町の池上宝蔵さん宅ののとキラシマツツジの苗約百本が鹿児島霧島市、宮崎県えびの市などに寄贈されました。のとキラシマツツジは江戸時代に鹿児島から北前船で能登半島に運ばれたとも言われていて、今回の寄贈

実に基づいた伝説の郷である」と評しました。重政靖之、藤野裕之珠洲商工会議所副会頭らは年内に発行する小説に期待を述べました。

は「里帰り」となるもので鹿児島霧島などの園芸愛好家達によって育てられることになりました。

7月下旬霧島市の招待で池上宝蔵さんの息子の池上権八さん夫妻が鹿児島を訪れ、苗の成育ぶりを確認に行く予定です。

# 里山里海でボランテニア いしかわDEワークステイ

- 珠洲 7/20-21 飯田燈籠山祭りお手伝い 3~5千円程度
- 8/中旬 飯田町盆踊りお手伝い 同
- 9/末 稲刈りお手伝い 同
- 能登 7月中 春蘭の里景観保全のお手伝い 要問い合わせ
- 7月~3月 赤崎いちご生産農家のお手伝い 4~5千円
- 輪島 10月 間垣の差し替え作業のお手伝い 5千円
- 7月~11月 金蔵地区における農作業のお手伝い 3千円
- 8月17-18 「黒島天領祭」のお手伝い 5千円
- 8月16-17 「金蔵万燈会」のお手伝い 3千円
- 穴水町、七尾市、羽咋市など 祭り、農作業など多数

### 【お問い合わせ、申し込み窓口】

いしかわ「第二のふるさと」推進実行委員会(石川県企画振興部地域振興課)

電話: 076-225-1312



珠洲市大谷町池上家:のとキラシマツツジ

## ◎ふるさと行事◎

7月21日(土)	14:00	品川プリンスホテル	ふるさと柳田会総会
7月22日(日)	12:00	新宿ハイアットリージェンシー東京	第6回いしかわ交流会
7月28日(土)	11:30	五反田ゆーぽーと	能登空港応援隊総会・懇親会
7月28日・29日	15:00	西大井広場公園	二葉町商店会「品川納涼祭」
8月16日(木)	午後	珠洲商工会議所	飯田高校同窓会総会
10月21日(日)	10:00	飯田高校講堂	飯田高校創立百周年記念式典・記念講演
10月26日(金)	16:00	ビーチホテル	祝賀会
	18:30	椿山荘	第5回いしかわ県人祭

# 能登キリコ祭り 品川納涼祭

## 東京 DENAE 能登半島

7月28日(土)

15:00 納涼祭オープニング

能登空港応援隊 キャンペーン

17:00-17:40

キリコ担ぎ出し、とも旗祭り

担ぎ手集まれ!、担ぎ体験も!

※珠洲物産展、接待所にもお立ち寄りください

7月29日(日)

15:00 納涼祭2日目

能登空港応援隊 キャンペーン



第32回  
**品川納涼祭**

7/28(土) 29(日)

会場：西大井広場 15時半～20時

能登キリコ 現る

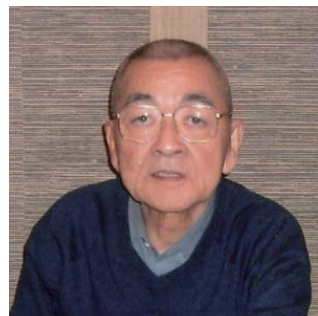
会場案内：JR 西大井駅 徒歩2分 (JR 横須賀線品川の次の駅 / JR 湘南ライン五反田の次の駅)

## 石川づくしの大懇親会 いしかわ県人祭 in 東京

10月26日(金) 午後6時30分開会  
文京区 椿山荘 プラザ5階オリオン

### おっちゃんどっちゃんの名の会長を偲んで

やさしい紫陽花の雨にぬれた花玉は、まるでお辞儀をしているように思われてなりません。二〇一二年四月一日裏野七生氏の訃報に接し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



かえりみまずと裏野氏は首都圏能登町会会長として、八年ぐらいたりますので、頂き本当に有難うございました。その間私は同級生として、会長と接した数々の事が走馬燈のごとく思い出されます。中でも通称会長を「おっちゃん」と呼ばせて頂き、月に一度は会長とともに良く語り合い、時には旅に出たりして会の存続に力を発揮され、その時のおっちゃんの真面目で思いやりの深いお顔……忘れられることはありません。

を守っていく所存でございます。おっちゃん、ご苦労様ございました。日ごと目まぐるしく変わる世の中ですが、どうか安らかに眠りください。合掌  
山本 満子

〔裏野七生氏の経歴〕  
昭和10年能登町で生まれる  
横浜市磯子区で有限会社「玉膳」を起業、社長  
首都圏能登町会会長  
平成16年石川県人会理事、平成18年同副会長  
(写真) 在りし日の裏野会長

### 事務局から

前号で紹介された三朱の「つ」とキリシマツツジ」の開花は今年もゴールデンウィーク半ば頃から最盛を迎え、鮮やかな朱花の繚乱が人々を魅了しました。樹齢三百年を越え、観る人に感動を与え続ける名木も元を辿れば原産は鹿児島県の霧島であり、それは北前船の盛んな海運によってもたらされたといわれています。陸路が狭隘・未発達だった古代、中世において長距離・大量輸送の主役は言うまでもなく海運であり、海路はいわばハイウェイの役割を担いました。北海道、東北と瀬戸内海、大坂を結んだ北前船がはるか九州鹿児島にまで雄飛していた往時の活況が偲ばれます。

能登では奈良時代から造船が盛んだったことが知られていますが、これは日本海のほぼ中央に突出した能登半島の地理的条件と無縁ではありません。アジアの世紀と呼ばれている今日、歴史と可能性を秘めたこの地勢上の特性を活かす方途はないものでしょうか。

(乙丸)